

感染症対策と衛生管理

【新規採用時研修】

～現場に出る前に必ず知っておくべき「鉄則」～

作成者：6人家族パパの人生設計室

■ 本日の研修ゴール

- ✓ 感染経路に応じた「正しい防護具」を選べるようになる
- ✓ 「標準予防策（スタンダード・プリコーション）」を理解する
- ✓ 嘔吐物発見時の「初動（報告・換気）」ができるようになる

ウイルスはどこから？ 3つの感染経路と対策

感染経路	主な病気	【重要】現場での防護ルール
 接触感染 触ることで感染	<ul style="list-style-type: none">• ノロウイルス• O-157• 疥癬（かいせん）	手袋 + ガウン（エプロン） <ul style="list-style-type: none">✓ ケア前後の手洗い徹底✓ 手すり・ドアノブの消毒
 飛沫感染 咳・くしゃみ(1-2m)	<ul style="list-style-type: none">• インフルエンザ• 新型コロナ• 風邪症候群	サージカルマスク + ゴーグル <ul style="list-style-type: none">↔ 距離を保つ（ソーシャルディスタンス）⇒ 定期的な換気
 空気感染 空気を漂う	<ul style="list-style-type: none">• 結核• 麻疹（はしか）• 水痘	N95マスク（特殊対応） <ul style="list-style-type: none">⚠ 疑いがある時点で上長へ即報告█ 個室隔離・近づかない

 新人さんはまず「接触（手洗い）」と「飛沫（マスク）」の対策を完璧にしましょう！

今日から徹底！標準予防策（スタンダード・プリコーション）

✿ これらは全て「汚染」とみなす

「見た目がきれいだから」「あの人だから」は通用しません。
以下に触れる時は必ず手袋を着用します。



血液



体液（唾液・鼻水・痰）



排泄物（便・尿）



傷のある皮膚・粘膜



例外：汗（あせ）

※これだけは感染源に含まれません

✿ 手洗い（30秒）の徹底

ウイルスは「手」から入ります。
ケアの区切りごとに必ず洗いましょう。

⚠ 洗い残しワースト3（意識して洗おう）



1. 指先・爪



2. 親指の付け根



3. 手首

※手袋を外した後も、手は汚れています。

必ず手洗いか消毒を行ってください！

【現場実務】消毒液（次亜塩素酸Na）の作り方

ノロウイルスにアルコールは効きません。「ハイターで作って」と言われたらこの配合です。

① 嘔吐物・便の処理用

0.1% (1000ppm)



+

10ml
10ml

キャップ[°]
2杯

- ・ 嘔吐物に直接かける
- ・ 汚れた床を拭く
- ・ トイレの便座消毒

② 環境整備・掃除用

0.02% (200ppm)



+

2ml

キャップ[°]
半分弱

- ・ ドアノブ、手すりの消毒
- ・ おもちゃ、床の清掃
- ・ 日常的な環境整備

※ペットボトル(500ml)と市販ハイター(濃度5~6%)で作る場合の目安です。

嘔吐物を見つけた時の対応（新人向けアクション）

1



応援を呼ぶ
「報告」

「嘔吐がありました！」と
大きな声で知らせる。

2



窓を開ける
「換気」

ウイルスを外に出す。
風下には立たない。

3



遠ざける
「避難誘導」

他の利用者を
2m以上離れた場所へ。

🚫 絶対にやってはい
けないNG行動

✗ 掃除機で吸う（ウイルス拡散！）
✗ 乾燥するまで放置する

✗ 慌てて近づく・踏む
✗ 水拭きだけで済ませる

【重要】防護具（PPE）は「脱ぐとき」が一番危険

表面はウイルスまみれです。「内側（清潔面）を持って裏返す」のが基本です。



① 手袋

汚染最強！



② ガウン

首→腰の順



③ ゴーグル

つるを持つ



④ マスク

ヒモを持つ



⑤ 手洗い

仕上げ消毒



外側は「汚染エリア」
絶対に素手で触らない！



内側は「清潔エリア」
内側に手を入れて脱ぐ！

新人職員の健康管理：「休む勇気」が出勤より大事

①直ちに出勤停止・連絡

体温計 37.5°C以上の発熱

呕吐物 嘔吐・下痢（ノロ疑い）

感染症 感染症の陽性診断



迷つたら「自己判断しない」

「ただの風邪かも」「熱はないけどダルい」
→ 出勤前に必ず電話相談！

連絡先メモ（スマホに登録！）

00-0000-0000

担当：〇〇管理者まで

研修まとめ：現場に出るための「4つの約束」



全員が感染源のつもりで
「手洗い・手袋」を行う。



嘔吐物を見つけたら
「報告・換気・避難」！



防護具を脱ぐときに
表面に触れない。



体調不良を隠して
無理に出勤しない。

正しい知識が、あなたと利用者の命を守ります。